様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３２５２５
研究種目：若手研究(A)
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｈ０５３８２

研究課題名（和文）イスラーム政治思想に関する神学書写本の基礎的研究

研究課題名（英文）Basic Research on the Islamic Politico-Theological Manuscripts

研究代表者
橋爪　烈（Hashizume, Retsu）

千葉科学大学・薬学部・講師

研究者番号：１０６１３８６２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は、第一に、主としてオスマン朝支配下の諸地域から収集されたアラビア語写本のデータベースをもとに約3300件の写本データを収集し、アラビア語で書かれた神学書の数量把握とそのデータをもとに、どの書籍が前近代のイスラム社会においてよく読まれ、写本が作成され、またその書籍の注釈書が作成されたかを、量的に提示したこと、または量的に提示するための準備を行ったことにある。第二に、調査した神学書写本中、イスラーム政治思想研究の中心課題の一つである「イマーム論」が、どの写本に含まれているか、割り出し作業を行い、その状況を把握したことがある。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の第一の意義は、スレイマニイェ図書館所蔵の神学写本のデータベースを作成したことにある。全写本を調査したわけではないが、1万２千件中３千件強のデータを収集したので、同図書館所蔵の神学写本の傾向が明らかになるだろう。また神学写本中、「イマーム論」を含む写本の把握と重要作品の抽出、それらに対する各種注釈書の存在と参照関係の解明を行った。本研究は、思想書を個々の作品の内容だけでなく、数量的な把握から、どの作品がどのように読まれ、継承されていったかということを明らかにするための土台作りを行った。

研究成果の概要（英文）：The results of this study are, first, to collect data on about 3300 manuscripts from a database of Arabic manuscripts in the Suleymaniye Library mainly collected from various areas under the rule of the Ottoman dynasty, to grasp the volume of theological books written in Arabic and to present them in quantitative commentaries and manuscripts based on the data, which were then presented to Islamic society in pre-modern times. Second, it identified the manuscript containing "the theory of Imama" which is one of the central subjects in the study of Islamic political thought, and identified the situation.

研究分野：イスラーム政治思想

キーワード：イスラーム政治思想　イマーム論　カリフ論　アラビア語神学写本　スレイマニイェ図書館

１．研究開始当初の背景

2014 年 6 月 29 日、イスラム国（IS）の指導者アブー・バクル・バグダーディーがカリフに就任し、イスラム国樹立を宣言した。カリフとは、預言者ムハンマド死後のイスラーム共同体の政治的指導者を指し、初期共同体の政治的実権を握ると共に、10 世紀頃に政治的実権を喪失して後、現在に至るまで、政治思想の分野において主に議論されてきたイスラーム独特の政治制度である。トルコ共和国による廃止（1924 年）前後にはアラブのカリフ擁立論やインドのヒラーファト運動を惹起したが、廃止後 90 年間は、その復活を目論むイスラーム主義組織の行動理念中のみの存在であった。しかし 2014 年になって現実世界に復活を果たし、俄かに注目が集まっていた。

本研究が注目するのは、IS の帰趨に拘わらず、カリフ支配体制が今なおムスリムの政治制度として有効である（、そして有効であると考えられている）要因である。従って、カリフの存在を理論的に支える政治思想「イマーム論（伝統的に政治思想の分野では、カリフという用語ではなくイマームという用語が使用されてきた）」および、それが過去数世紀にわたって議論され、長くその命脈を保ち、現在に至っている状況の解明が必要となると考えた。

２．研究の目的

（１）イスラーム神学書写本の数量的データ収集

神学を中心とする数多くの政治思想書の写本が 12-20 世紀の間に作成され、消費されてきたことが、写本目録の調査から推測できる。またそれらの写本はナサフィー（1142 年歿）、ラーズィー（1209 年歿）、イージー（1356 年歿）ら 12-14 世紀の思想家の神学書やその注釈書の場合が多数である。これらは、トルコのカリフ制廃止に反対し、現代のイスラーム主義者の活動にも影響を及ぼしている 20 世紀初頭の思想家ラシード・リダー（1935 年歿）のイマーム論に名前が挙がる思想家の神学書である。そこで、その残存状況から多くの人々に読まれたと思われ、後世に影響を及ぼしたであろう彼らの著作の写本データを収集し、神学書（当然イマーム論を含むものを中心とする）の写本を数量的に把握することを本研究の第一の目的とする。

（２）写本の収集、書写・参照関係、影響範囲の把握

（１）の作業と並行して、神学書写本の持つ歴史的文脈の把握を行う。トルコでの写本調査は主にスレイマニイェ図書館で行うが、同図書館には 223 のコレクションが収められている。各コレクションはスレイマニイェ図書館への移管以前の所蔵機関（モスク、マドラサ等）の名前が冠されており、来歴がある程度把握できる。それらの機関へ写本が収集された経緯や方法、またそれらの機関での写本の利用状況などを調査し、神学書の影響範囲がどの程度の広がりを持っていたのかを明らかにする。また各写本の表題頁や奥書、欄外書き込み、写本間での本文の異同などの情報を基に、書写関係の把握に努め、写本系統図や個別の写本の伝承経路を明らかにする。

３．研究の方法

（１）写本調査

具体的な作業としては、まずスレイマニイェ図書館移管以前の各所蔵機関の目録が 40 冊ほど存在するので、そこから神学書写本を抽出し、次にそれらの写本に「イマーム論」が含まれるかどうかを現物ないし画像データにあたって逐一確認する。この作業については、豫め候補となる著作を挙げ、その写本から着手することで作業効率をはかる。調査項目は、書写年代、書写者、献呈・所蔵情報、そしてワクフ（寄進）の記録、蔵書印、イジャーザと呼ばれる聴講ないし修得認定の書付などで、これらを表題頁や奥書、欄外書き込み、本文などから可能な限り採取する。

こうした作業をコレクション毎に行い、可能であれば、写本間の書写関係を明らかにし、写本系統図の作成も行う。コレクション毎の調査と並行して、各コレクションに含まれる特定の著作の、コレクション間での比較対象や相互の利用・参照関係についても調べる。

経験上、実物の写本に触れ、紙質や色、大きさなど外形的な情報を得ることが写本間の関係を明らかにしてくれる場合があるので、ある程度の期間をとって現地で調査することが必要である。

（２）写本の収集、書写・参照関係、影響範囲

イマーム論を含む神学書の写本の機能や社会に与えた影響を明らかにするため、１）の成果に基づきそれらの写本が作成・利用された歴史的文脈を明らかにする。マムルーク朝からオスマン朝期における神学をめぐる議論や教育などの知識の授受に焦点を当てて調査を行う。前述のように、アラビア語写本の多くがトルコに集められた経緯があること、現在の政治情勢ではエジプトやシリアでの写本調査が困難であることなどから、主にスレイマニイェ図書館所蔵のコレクションを調査対象とし、余裕があればトプカプ宮殿付属図書館やイスタンブル大図書館のコレクションなどの形成史と蔵書がどのように利用されたかについて調査を行う。またコレクション形成の重要な証拠となるだろうワクフ文書の抽出と内容把握を行うため、イスタンブルのトルコ共和国総理府オスマン文書館やアンカラのワクフ総局での調査も視野に入れている。

４．研究成果

（１）本研究の最大の成果は、スレイマニイェ図書館所蔵の神学写本およそ１万２千件のうち、３３１３写本について、タイトル、著者、写字生、作成年代（筆写年代）および作成場所、葉数、行数、写本のサイズ、イマーム論を収録する該当箇所の葉数、ワクフ情報などのデータを収集したこと、およびそのデータを、スレイマニイェ図書館所蔵のコレクション毎に整理したことにある。なおスレイマニイェ図書館所蔵のコレクションは２２３あるが、このうち、神学写本の数の多いコレクションないし思想史研究上重要と思われるコレクション（スルタンや有力な政治家、著名な学者の収集したもの）のうち、１４のコレクションを選び、作業した。下記表はその概要を示したものである。

	表１　写本調査の概要			
	Collection	イマーム論等	神学写本数	備考
1	Ayasofya	122	631	公開中
2	Beşir Ağa	22	104	準備中
3	Beşir Ağa Eyüp	0	24	準備中
4	Carullah	100	519	準備中
5	Damad Ibrahim	28	149	準備中
6	Fatih	137	690	公開中
7	Fazıl Ahmed Paşa	53	265	公開中
8	Hacı Selim Ağa	83	211	公開中
9	Laleli(part)	61	122	データ一部のみ収集
10	Mehmed Asim Bey	55	179	公開中
11	Ragıp Paşa	60	136	準備中
12	Süleymaniye	49	170	公開中
13	Turhan Valide Sultan	7	35	公開中
14	Yenicami	14	78	公開中
	合計	791	3313	

当初、スレイマニイェ図書館の写本検索システムを使用して「神学」に分類される写本のうち、アラビア語で書かれたものは約１万２千件であった。その数を母数とした場合、３千件強のデータを収集しているので、少なくともスレイマニイェ図書館所蔵の神学写本に関しては、現状のデータ数でその傾向はほぼ掴めるといってよいだろう。すなわち、３３１３件中、イマーム論を収録する作品は７９１件であるので、２３．８７％、約４分の１の作品にイマーム論が収録されていたことになる。よって、イマーム論は神学という学問において、４作品に１冊が扱っているテーマということになり、主要なテーマの一つとして学ばれ、その見解が継承されていったものと考えられる。

（２）
収集したデータは、報告者「橋爪烈」の **Researchmap** ページにある「資料公開」において、その未整理状態のものを公開している。１４コレクションのうち、８コレクションについて公開中である（表１備考欄にて指摘）。https://researchmap.jp/read0141011/

公開中のデータの一例を以下に示すと（**Ayasofya** コレクションの最初の１３データ　見本）、

	MS No.	L	title	author	scribe	date / place	folio	line	size	field	place of Imamah, Khilafa, Tafdil	place of Imamah, Khilafa, Tafdil	related MS	references	Waqf	notes
1	41-003	T	(كتاب التجريد بالتركية)				ff. 74b-82a	11	216x140; 125x65 mm	Kelam						
2	377-005	A	الاربعون سم وخاصة	شهاب الدين السهروردي			111a-114b	23	198x138; 138x100 mm	Kelam						
3	397-001	A	رسالة في بيان افتتاح الختم واختتامها شرائطها				1-36b	9	173x127; 107x65 mm	Kelam					العازي محمودخان	36b以降欠落
4	399-004	A	رسالة في مسئلة خلق الاعمال	الدواني، جلال الدين محمد بن اسعد الصديقي		899HMuh29	75-93	9	220x140; 141x90 mm	Kelam						
5	438M-002	A	شرح العقائد النسفية	التفتازاني، سعد الدين مسعود بن عمر		1139H	23-74	19	197x136; 150x85 mm	Kelam						刊本
6	574-002	A	شرح فقه الأكبر	المغنيساوي، أبو المنتهى أحمد بن محمد			95-130a	17	206x123; 149x68 mm	Kelam	ff. 110b-112b	ff. 110b-112b				
7	574-003	A	الدراهين	أبو عبد الله محمد بن يوسف السنوسي الحسيني التلمساني			130a-136a	17	206x123; 148x68 mm	Kelam						
8	574-004	A	شرح قصيدة الأمالي	الأشي، سراج الدين علي بن عثمان بن محمد الفرغاني			137b-169b	17	206x123; 148x68 mm	Kelam	ff. 156a-158a	ff. 156a-158a				
9	574-005	A	عقائد النسفي / عقائد اهل السنة	النسفي، نجم الدين عمر بن محمد بن أحمد الحنفي			169b-174b	17	206x123; 148x68 mm	Kelam						
10	574-006	A	عقائد الطحاوي	الطحاوي، أحمد بن محمد بن سلامة الازدي الحنفي			174b-181	17	206x123; 148x68 mm	Kelam					العازي محمود خان	
11	672	A	الجلد الثاني من عمدة القاري شرح البخاري	العيني، بدر الدين محمود بن أحمد بن موسى الحنفي		877HShw12Wed	347	29	270x172; 200x104 mm	Kelam					العازي محمود خان	
12	930-002	F	رسالة الموت	روحي			262-264	bb	245x180; bbxbb mm	Kelam						
13	937-002	A	قهر العون ممن يدعي ايمان فرعون	علي القاري، نور الدين علي بن سلطان محمد الهروي	مصطفى بن خليل	Mekka/1130H	239-270	21	229x129; 167x72 mm	Kelam						dataリンクなし

上記データのうち、重要なものは、左から 5, 6 番目の列に示した、その写本中の「イマーム論」の該当箇所の情報である。ここには、内容上、イマーム論が示された箇所の葉数を掲載しているが、併せて、イマーム論に密接にかかわる「タフディール論」についても、収録している場

合は、その該当の葉数を記載した。このタフディール論は、ムハンマド死後のイスラム共同体を支配した四人の正統カリフについて、その有徳性とカリフ（イマーム）就任順を定める議論であり、イマーム論の一部を構成する内容である。また、作品タイトルについて、すべての写本が完全に一致する形でタイトルを掲載しているわけではなく、内容が同じ作品であっても、表題葉に示されたタイトルの文言が若干異なる場合が多数あった。このため、著者ないし写字生の情報と突き合わせながら、同一作品であるかどうかの確認が必要であり、この作業のために、表題葉に示されたタイトルと思しきいくつかの文章を併せて収録している場合がある。公開中のデータにはその件は提示していないが、今後はそうしたデータの提示についても、効果的な提示法を模索しつつ、公開していく予定である。

（3）
上記、データ収集の過程で、当初より重要作品と想定していた神学写本について、その作品自体とその作品に対する注釈書、およびそれら注釈書に対する注釈書の存在についての関係を明らかにするための作業を行った。ここで選定した作品は 11-12 世紀にかけて中央アジアのサマルカンドで活動したマートゥリーディー派神学に属する学者アブー・ハフス・ナサフィーの神学書『ナサフィー信条』とそれへの注釈書群である。このナサフィー信条は非常に短い作品であり、それゆえ広く読まれることになった作品であると思われるが、簡潔であるがゆえに、内容への解釈・説明が必要であったと考えられる。

この『ナサフィー信条』に対しては 14 世紀に同じくサマルカンドで活躍した大学者タフターザーニーが詳細な注釈を記しており、これによって『ナサフィー信条』の内容は広範な地域に広がることとなったと思われる。つまり、タフターザーニーの注釈については、19 人の注釈家が改めて注釈を施すという形で、この作品を読んでいることが、スレイマニイェ図書館所蔵神学写本の調査から判明したためである。『ナサフィー信条』への注釈書がタフターザーニーのものを含めて 3 作品しかないことに比べれば、6 倍の数になる。さらに、タフターザーニーの注釈書に対する注釈書においては、15 世紀オスマン朝下の学者ハヤーリーの作品が最も読まれ、彼の注釈に対する注釈が 26 作品作成されていることが調査の結果判明した。なお詳細データの取得には至っていないが、スレイマニイェ図書館のデータベースで検索した限りでは、このハヤーリーの注釈書への注釈書作品の所蔵数は 275 写本であった。タフターザーニーによる注釈書の数は、調査件数 3313 件中 51 件、ハヤーリーの注釈書は 31 件であった。これら『ナサフィー信条』に対する注釈、および注釈の注釈、そしてそれへの注釈という形で写本が作成され続け、18 世紀にいたるまで『ナサフィー信条』が読まれ、解釈されてきたことがこうした写本調査から判明した。『ナサフィー信条』は本研究で注目するイマーム論（カリフ論）が収録された作品であり、この作品がこうした注釈を施す形で次世代に読み継がれていったことから、当然その中に収録されたイマーム論も読まれ、その考え方が現代にまで伝えられているとみてよいだろう。

この『ナサフィー信条』に対する注釈書の作成とそれらの関係についての調査は一つの作品に対するものである。これ以外にも、報告者が収集したデータからはイージー(1281-1356)の『階梯』や作者不詳『大フィクフ書』、ラーズィー（1149-1209）『宗教の根本についての 40 章』、あるいはダッワーニーやジュルジャーニーといった知識人たちによる注釈作業の成果について、同様に主たる作品とそれに対する注釈書の作成についての関係を明らかにすることが可能である。この作業は継続中であり、今後も注釈関係についての作業を行う予定である。

（4）
このほか、本研究では、オスマン朝期盛期（16 世紀）において提示されたカリフ論（イマーム論）として、スレイマン 1 世（1520-66）の大宰相ルトフィー・パシャによって書かれた小論考に注目し、写本収集と当該作品中に引用されている神学、法学作品の同定作業、そしてオスマン朝スルタンをカリフとして定立するための神学的法学的根拠をいかに提示しているのかについて考察する作業を行った。ルトフィー・パシャは自身の拠って立つ法学派ハナフィー派の諸知識人の見解を組み合わせることで、スルタンをカリフであると規定するが、こうした学問的営為によって、イスラム世界における政治思想、君主論が脈々と受け継がれ、現代においてもカリフ（イマーム）の必要性が説かれる背景をなしているものと考えられる。

（5）
以上のとおり、本研究の第一目標はスレイマニイェ図書館に所蔵されるアラビア語神学写本のデータ収集にあった。全神学写本 1 万 2 千件のうち 3 千件強のデータを揃えたことで、スレイマニイェ図書館所蔵写本の傾向については大まかに把握することが可能となったものと思われる。また主要コレクションの神学写本についてのデータベースを作成したこと、このデータを公開していることで、今後、神学以外の分野の所蔵写本の傾向を調査する際に、一つの指標を提供することができたことも成果と言えるだろう。今後は、収集データの利用、活用を図るとともに、今回の研究期間において調査しきれなかった事項の補足や別のコレクションにおける神学写本のデータ収集なども随時行っていき、より精度の高いデータベースの構築に努めたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計１件）

①橋爪烈「正統カリフ」概念の淵源としてのタフディール—スンナ派政治思想の発生—、歴史と地理：世界史の研究、査読無、248 号、2016 年、pp. 1-15

〔学会発表〕（計５件）

①橋爪烈「Lutfi Pasha's theory of the caliphate」、国際シンポジウム「王権、イデオロギー、言説－－イスラーム王朝の正統化」、2018 年 12 月 15 日（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所） 主催：科学研究費基盤研究 A「イスラーム国家の王権と正統性－－近世帝国を視座として」プロジェクト　代表者：近藤信彰

②橋爪烈「ブワイフ朝の成立とジバール、ファールス系官僚の台頭」、平成 29 年度九州史学会大会イスラム文明学部会、2017 年 12 月 10 日、（九州大学）

③橋爪烈「ルトフィー・パシャのカリフ論—その思想的背景について—」日本中東学会第 33 回年次大会、2017 年 5 月 14 日、（九州大学）

④橋爪烈「貨幣資料から見た初期ブワイフ朝の権力構造」シンポジウム「イスラームの王権と正統性：中世から近代へ」、2015 年 12 月 13 日（九州大学）、主催：科学研究費基盤 A「イスラーム国家の王権と正統性：近世帝国を視座として」

⑤橋爪烈「イスラーム史料にみるローマ教皇：アラビア語史料を中心に」、科学研究費基盤 B「中世盛期教皇庁の統治戦略とヨーロッパ象の転換」研究会、2015 年 9 月 26 日、（立教大学）、主催：科学研究費基盤 B「中世盛期教皇庁の統治戦略とヨーロッパ象の転換」、代表者：池上俊一

〔図書〕（計２件）

①鎌田繁（監訳）、仁子寿晴、橋爪烈（共訳）『イスラーム神学における信の構造:イーマーンとイスラームの意味論的分析』(井筒俊彦英文著作翻訳コレクション)、慶応義塾大学出版会、2018 年、440 頁

②橋爪烈『ブワイフ朝の政権構造—イスラーム王朝の支配の正当性と権力基盤』、慶應義塾大学出版会、2016 年、416 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ

https://researchmap.jp/read0141011/%E8%B3%87%E6%96%99%E5%85%AC%E9%96%8B/

上記ホームページにて、調査データをコレクション（分類）毎にまとめたものを公開している。ある程度整理がついたものから順次公開しているが、継続して作業中であるので、今後も公開予定である。

６．研究組織

(1)研究分担者　なし

(2)研究協力者

研究協力者氏名：柳谷あゆみ

ローマ字氏名：YANAGIYA Ayumi

研究協力者氏名：渡邉真代

ローマ字氏名：WATANABE Masayo

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。